

電気通信大学「政治学B」配布レジュメ

水曜5限（16：15～17：45） A201教室 講師：米山忠寛

後期第13回：2024年 1月17日（水） 休講 遠隔教材配布 実施

「選挙政党」

＜時事問題・コラム＞

（前回の復習）◎社会的背景コロンビア・モデル

◎無党派層の増加。その背景としての脱物質的価値観。

（前回の続き）～～

※バンドワゴン効果（勝ち馬に乗る）

- ・途中まで迷っていても、途中から勝ちそうな側に転じて恩を売る。
アメリカ大統領選では長い選挙戦の中で徐々に上位の候補に政治資金・政治献金が集中していく。負ける候補者に献金しても意味がないから。
- ・政策的には好きだけど当選できなさそうな候補に投票して自分の一票が無駄になるのは嫌。→当選可能性のある候補の中から選ぶ。

★：「選挙政党：音源⑨I」

※アンダードッグ効果（判官贔屓）

- ・迷っている時に、候補者の一人が（僅差で）負けそうだと知ると、投票したくなってくる（自分の一票で逆転できるかも、と期待する）。
（←→逆に優勢と聞くと、応援しなくてもどうせ勝てると思い投票しなくなる。）

※バッファープレイヤー（バランスを取る。与野党均衡を望む思考。）

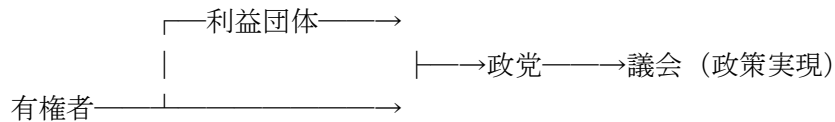
- ・与党が衆議院ではとても勝ったから、参院選では野党を勝たせよう。
選挙区と比例代表で二票あるから与党と野党に一票ずつ入れよう。など。

→○有権者は細かい政策や争点についてはわかっていないかもしれない。だけど、長期的に見ていくともしかしたらちゃんと考えて戦略的に投票をしているのかもしれない。という考え方も出て来て多様な側面が検討されている。

「選挙・政党」（利益団体） （ここまでは浮動票の話。ここからは組織票の話。）

○この講義のテーマとして、選挙で有権者の意向を汲み取るための2つの存在。

「政党」そして「利益団体」について。どうやって意見を反映させるか。（「変換型議会」の場合では、どのようにそれを政策に反映させるか、という問題にもなる。）



利益団体が、

政策の陳情、政治献金、政策提言、票集め、選挙運動員のボランティアでの提供、政治家・官僚への働きかけ、などなど。

（※政治家が業界の利益のために働いてくれる様に利益団体が「圧力団体」となって議員に自分達の利益になる様に法律の内容を変えさせる圧力を掛ける。「利益団体」について「圧力団体」という表現を用いることもある。）

- ・利益団体の構成員は共通の利害関係を持ち、政策の実現の為に行動する。
実現しないようであれば他の政党の支持に変化することもあり得る。
（ＴＰＰ反対のために、一部農協は自民党候補を推薦せずに共産党推薦なども）
- ・ただ利益団体は自分達の利益を主張していく中で、国民の一部だけの利益を代弁してしまうことになる。（しかしそれは仕方がないこと。声高に主張しないと、聞いてもらえない。）

★：「選挙政党：音源⑩ J」

◎利益団体の存在は政党と並んで議会制民主主義の中では非常に重要。

（「圧力団体」とも表現され、「業界団体」と内容が重なる部分も多い。）

・・・国家と国民の間をつなぐ役割。

○団体が弱いと・・・国家が強過ぎて、国民が弱すぎる、状態になってしまう。

（共産主義国家では政治的意見を発してはいけない。意見を言う機会もない。そんな中でポーランドなどではキリスト教の教会が、人々が生活についての意見を示す団体となっていた。）団体なくしてデモクラシーなし。

○「一人の意見」は「強大な国家」の前では塵（ちり）の様に吹き飛ばされる。

- ・多くの人の意見としてまとまらないと何の影響も出ない。
- ・政党も国民自身もその意見が存在していることに気付かないこともある。
（ブラックバイトなど、みんな不満があっても個人の問題だと思ってしまう。）
→労働組合があると、みんなが実は同じ不満を持っていたと気付くことも。

<日本の利益団体>・・・各分野に職業毎の無数の団体がある。

○経営者の団体

日本経済団体連合会（経団連）・経済同友会・日本商工会議所（日商）

- ・（主に法人税を下げてくれ、商売をしやすくしてくれ、など）

○労働者の団体・組合

日本労働組合総連合会（連合）・全国労働組合総連合（全労連）

全日本自治団体労働組合（自治労）・日本教職員組合（日教組）

- ・（主に賃上げをしてくれ、労働環境を改善してくれ、など）

○産業関係 その他（農業・医者・看護婦・歯医者・宗教関係などなど）

農業協同組合（農協）・日本医師会・日本看護協会・日本歯科医師会・

日本薬剤師会・全国郵便局長会・日本酒造組合連合会

日本遺族会・創価学会・神道政治連盟・全日本仏教会

- ・（ＴＰＰ反対・米価値上げ・診療報酬値上げ・郵政民営化反対
薬のネット販売反対・宗教の精神を尊重して、などなど）

○一つの政党だけを支持する場合もあれば、要求する政策に共感してくれる候補者であればどの政党に所属していても構わないという団体もある。

★：「選挙政党：音源⑩K」

○支持している政党への政治献金

- ・汚職の温床としての批判もある。業界の意向に左右される。だが一方で、政治献金は有権者が政策を実現してくれる政党を応援するという意味では、議会制民主主義の基本でもある。
- ・共産党は政治献金に反対するが、新聞「赤旗」購読料を主な収入にしている。

○別に国民にとって良い政策ばかりではない。各団体の要求は矛盾・対立する。

（アメリカでは全米ライフル協会なども有力。銃規制反対。）

○政党が国民全体の希望よりも、応援してくれる利益団体の要求を重視し過ぎてしまうという問題もある。（だって有権者が何を考えているかわからない。利益団体ははっきりと希望している要求を示してくれる。）

○これは議会制民主主義の非常に大きな問題。

根本的な問題。投票でしか国民の期待の強さを判断できない。制度的欠陥。

どうすればみんなが満足してくれる良い政治になるのか誰にもわからない。

→結果的に目に見える要求が勝ってしまう。

◎（もう一つの隠れたテーマは、「なぜ若者の意向は政治に反映されないの？」

「議会制民主主義ではシルバー民主主義を防いで若者の意向を反映させることが如何に困難であるか」という問題。）

- ・コメントカードなどで、結構な数の「シルバー民主主義（＝高齢者の意向が強く反映されること）」は問題であり、若者の意見がより反映されるべきだ、という意見が見られる。そのためには「若者が選挙に行って投票率が高くなれば解決するはず」とのこと。そうだろうか？、ただ投票するだけではおそらく不足。

○定義上、「高齢者は一旦高齢者になったらずっと高齢者」だが、「若者はその後
壮年（社会の中堅層）になっていく（＝立場が変化していく）ということ。

大学進学で大都市に移り住む、更には就職で移住する。（＝地域の政治に根付いて
いない。どんな政策が利益になるのか本人自身もわかっていない事が多い。）
困ってしまうのは「若者のための政治」を求めるとして、具体的にそれが何なのか
が見えない（＝可視化されていない）、どれだけの強い支持（＝票数）があるのか
わからない、ということ。

○重要な事は、

若者の数は多かったとしても選挙に際しては候補者や党にとって顔が見えない。
自分達に投票してくれるかわからない。そもそも何を考えているかわからない。
どんな政策を訴えれば投票してくれるのかわからない。

（以前であれば「わかりやすい利益」があったが、脱物質的価値観だから）

（お年寄りの方が簡単。「年金」は高齢者の共通の利益でわかりやすい。）

（大学の学費値下げを訴えた時に若者はどれだけ支持を変化させるのだろうか？）

- ・学生皆さんには多様な未来が開けている。だが未来がはっきりしないと組織
化できない。逆に地元地域で高卒で就職したならば地元から動きにくい。地域
の政治にどっぷりと漬かっていくことになる。地元商店街を発展させてくれる
候補を応援しなくては！、と。

○「たまにしか投票しない有権者」の声が反映されないのは問題なのも確か。

しかしみんなが同じ一票を持っても影響力は違ってくる。

その理由として背景にあるのが利益をまとめる利益団体の存在ということになる。

補充：★：選挙政党：音源⑫L」

○若者が要求を通すには？ 戦後の学生運動の盛り上がりの背景にあったのは、

「安保反対」などと合わせてセットにして、大学の環境改善などを訴えて一般学生
の共感を得ていたから。そのような形で若者にとっての利益が目に見える形でまと
まっていれば主張も通りやすいのだ。（学生が利益団体として機能する例と言える。）

○商売でも「お得意様」にはサービスしてくれることもある。

政治についても「必ず投票してくれる支持者」のためには議員も努力する。

→ となると無党派層などは扱いが悪くなって損をしている？

- ・何も考えずに投票をし続ける有権者は、お得意様を作っていると思えば有益？

→ 毎回投票先を変える無党派層との違いになってくる。

○一方で無党派層は気まぐれ。大きな争点などがないと投票してくれない。無党派層

の票に期待しすぎる政党などは場合によっては壊滅的打撃を受けることがある。

○タレント・歌手・俳優女優などでも同じ。

[強く支持する離れないファン] ← → [一時的な人気ですぐに離れるファン]

タレント事務所は「ファン倶楽部」で固定ファンへのファンサービスを強化。
政治家・議員は「後援会」を組織し、支持者・利益団体からの支持を固定化させる。
(すぐに離れそうなファンやたまにしか投票しない有権者に頼るのは不安。)
(政治家・議員と利益団体・有権者の間の長期契約とも言える。)

- ・・演歌歌手など大人気の歌はなくとも、細く長く支持される歌手もいる。
- ・・一発屋ですぐに消えて忘れ去られる芸能人もいる。(＝無党派層頼み)
(自民・公明・共産などは強い組織を作っている。旧民主党系は労働組合(連合)系の候補者は組織が強いが、他は弱い。維新は全国的な組織がない。)

○「たまにしか投票しない有権者」の声が反映されないのは問題なのも確か。
しかしみんなが同じ一票を持っても影響力は違ってくる。
その理由として背景にあるのが利益をまとめる利益団体の存在ということになる。

<質問カード・コメントカードへの応答>

Q 「」

A 「」

